

稲わら・麦わらは 土づくりに重要な有機質資源です

わらをすき込んで米・麦・大豆の収量向上を目指しましょう！

■わらすき込みの効果

わらすき込みを繰り返すことで、

- ①腐植^{*}の低下を緩和できる。
- ②土が軟らかくなり、作物の根が伸長しやすくなり、生育が良好になる。
- ③土の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できる。

※「腐植」とは、土壤に含まれる有機物のこと。土づくりのための一つの指標であり、腐食によって土壌の物理性、化学性、生物性を良好にすることができます。

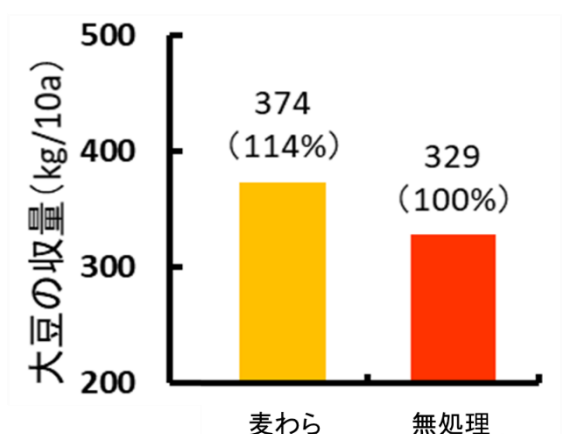


図 麦わらの5年間連用が大豆の収量に及ぼす影響
※大豆-麦の作付体系（福岡県農林業総合試験場）

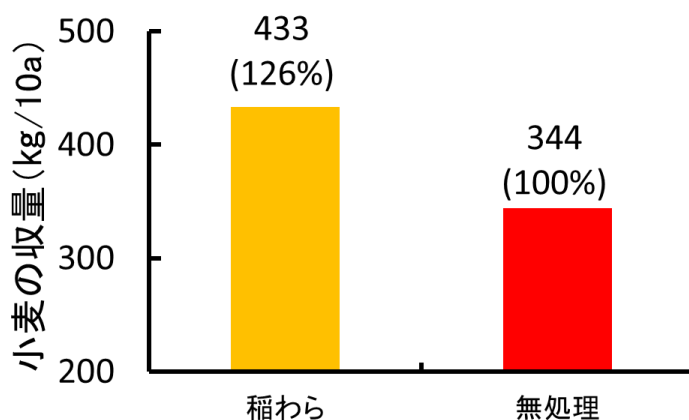


図 稲わらの19年間連用が小麦の収量に及ぼす影響
※水稲-小麦の作付体系（岡山県立農業試験場）

■わらすき込みに関するQ&A

Q1 わらを焼却せずにすき込んだら、雑草の発生が増えるのでは？

A1 わらの焼却ではほ場全体の雑草の発生を減らすことはできません。
佐賀県の試験では、麦わらをすき込んだ方が雑草の発生が減少しています。

Q2 トビイロウンカが多発したときは、稲わらを焼いて死滅させた方が良いのでは？

A2 トビイロウンカは日本で冬を越すことができずに死んでしまうため、わらの焼却と翌年のトビイロウンカの発生量は関係がありません。

Q3 わらを焼却しても、カリやケイ酸といった無機成分はほ場に残るのでは？

A3 無機成分は焼却しても残りますが、有機質資源としての効果が極端に低下し、地力低下の要因になります。

麦わらのすき込み方法

1. 麦収穫時

麦わらは長め（15cm以上を目安）にカットし、ほ場全体にできるだけ均一にバラまきます。

（細断してしまうと、麦わらをうまくすき込むことが出来ず、水に浮き上がってしまいます。）

2. すき込み前

麦わらすき込み開始後3年間は、麦わらの分解促進のため、「ちくごのめぐみ444」で10～15kg/10a増肥します。（長年わらをすき込んでいる場合は、増肥の必要はありません。）

3. 代かき時

代かき(荒かき)は、ごく浅水で行います（ガタかき）。浅水での代かきにより麦わらの浮き上がりを防止します。



代かきは、溝に水が見える程度の水量で



代かき後に、泥と土がなじむような水位となるのが理想

4. 田植え後

田植え後、麦わらの腐熟によりガスがわき、水稻の初期生育を抑制する事があります。このような場合は、落水して軽く田面を干すと速やかに回復します。